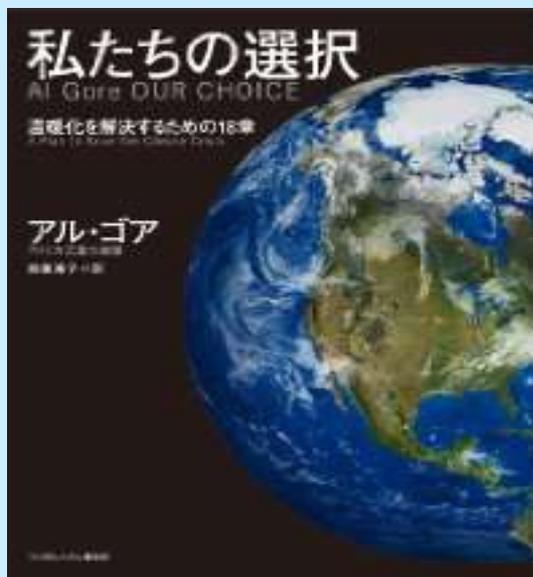




真に持続可能な社会へ向けて

—市民の意識・理解・責任—



枝廣 淳子

内容

1. 「低炭素社会」を超えて
2. 本当に大事なこと
3. 科学リテラシー・コストリテラシー
4. 「共創」

「低炭素社会」を超えて

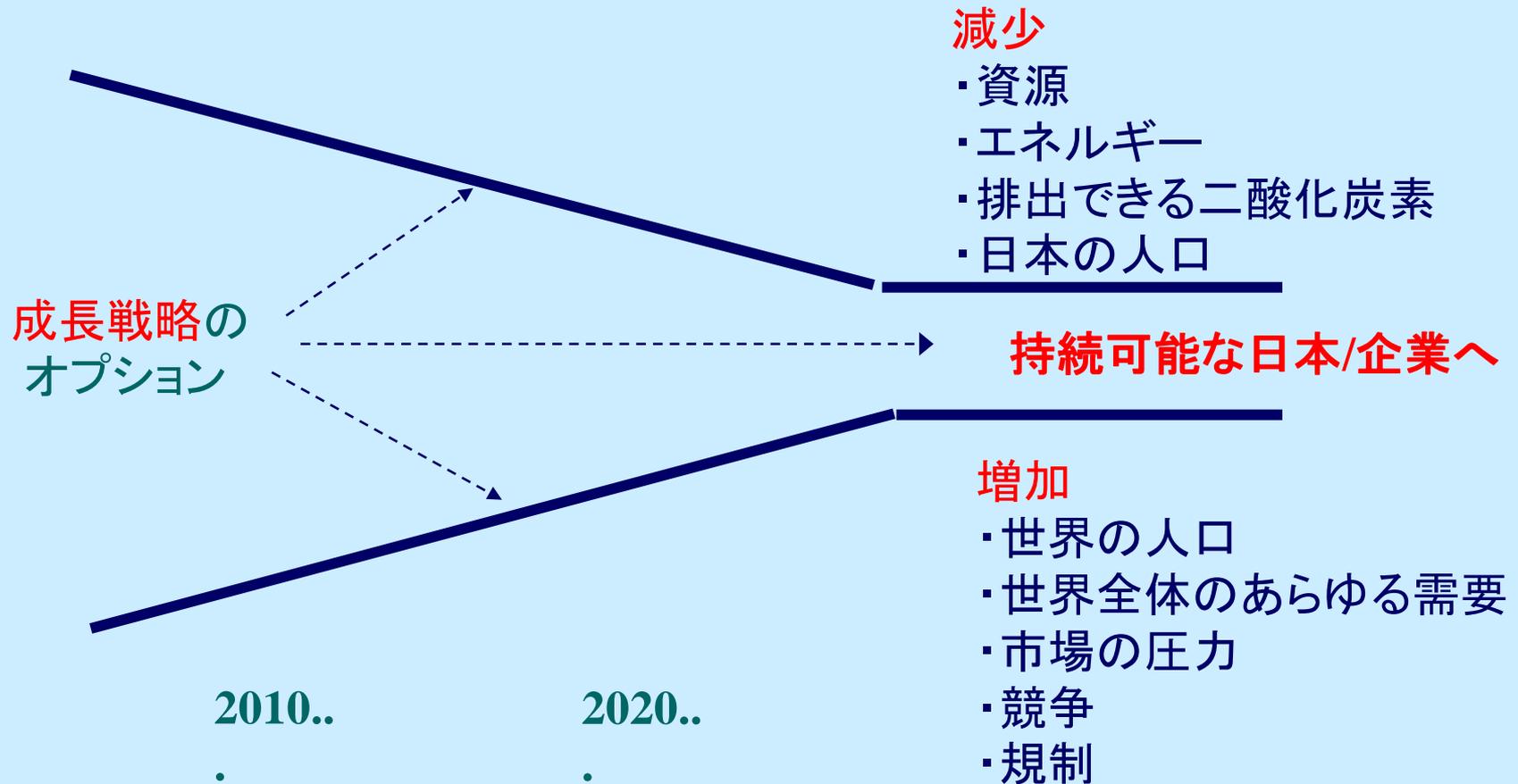
通常の景気循環ではない「移相」

次の長期的な均衡を探る動乱期

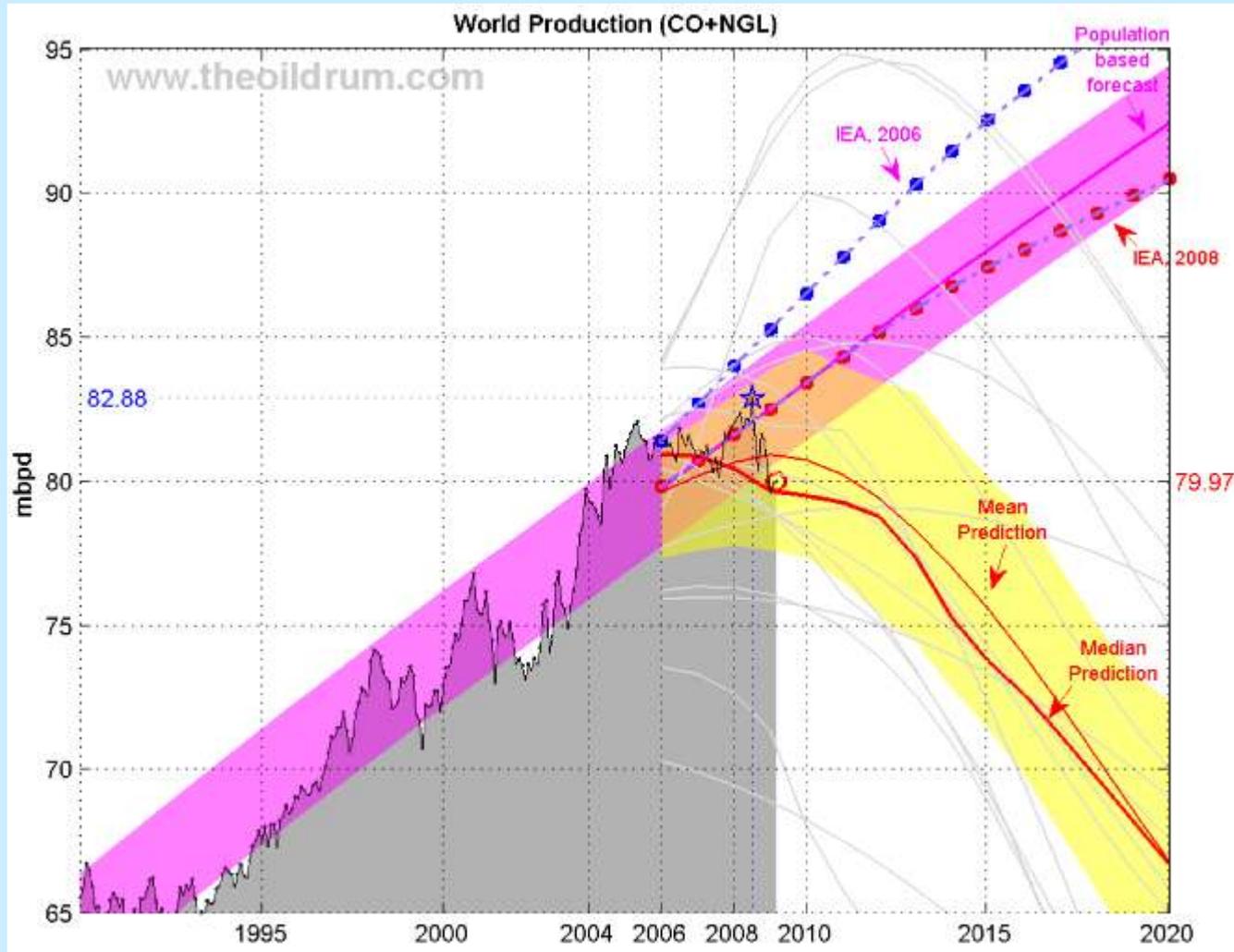
「今起こっておりますサブプライムモーゲージローンの問題に端を発する国際金融市場の混乱、これについての基本的な性格は、私は世界経済全体として地球環境資源、エネルギー資源、あるいはその他素原材料等の資源制約というものの絶対的な天井というものを意識し始めた途端に、マーケットがそれまでの経済の動きに対して、あるいはその過剰部分に対して急ブレーキをかけている。次の長期的な均衡は何かということを探る努力を促している、そういう現象だというふうに基本的に理解しています」

(温暖化問題に関する懇談会にて福井元日銀総裁の発言より)

資源・エネルギー・炭素制約が厳しくなる世界



ピークオイル: 2012~2014年にも

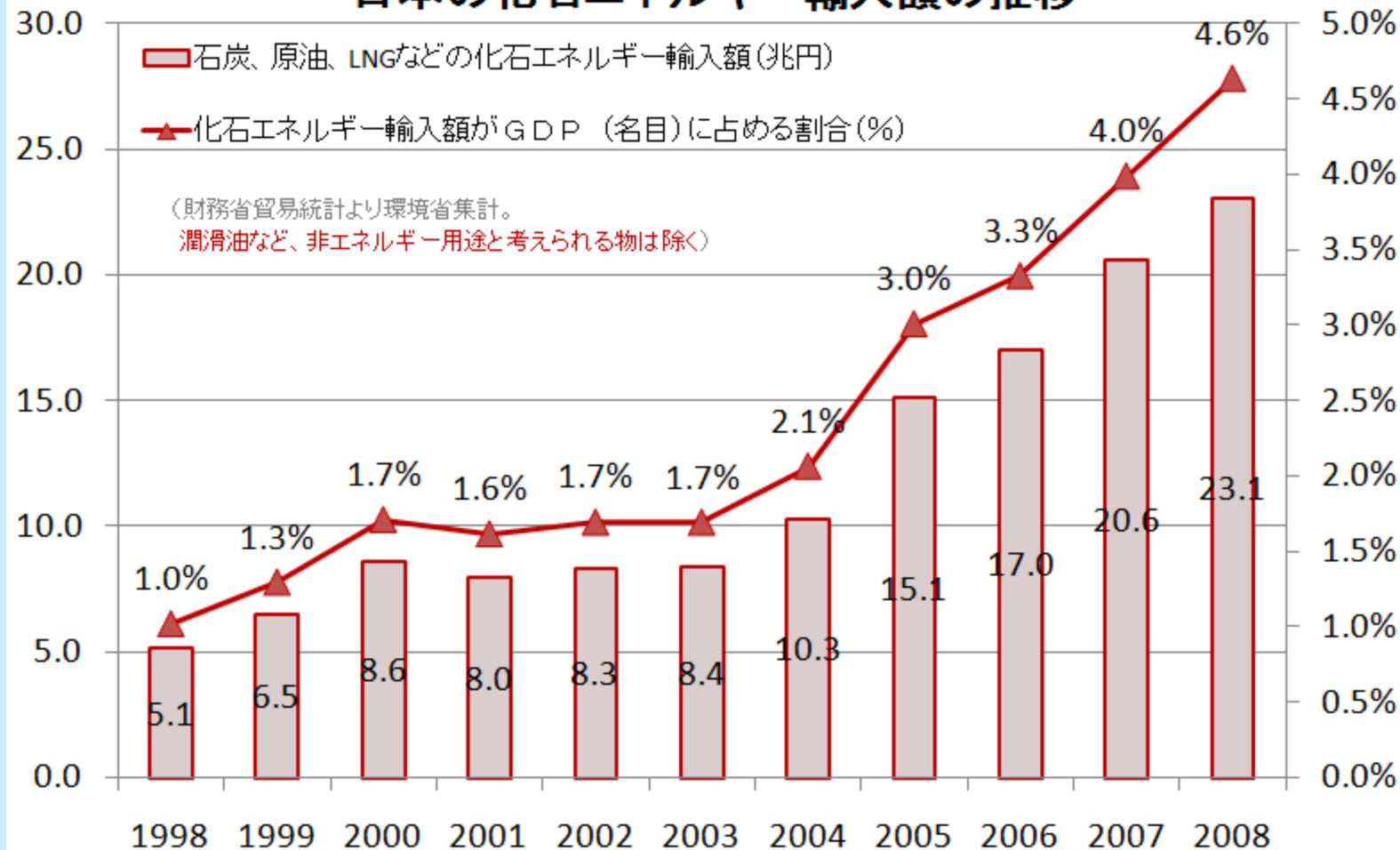


IEA（国際エネルギー機関）2009年8月

「世界の埋蔵量の4分の3を占める800の油田を調べたところ、**主要な油田のほとんどでは、すでに産油量がピークを過ぎており、世界全体の産油量も10年以内にはピークに達するだろう**」

「2007年に、産油量の減少率は年3.7%と予測していたが、**実際は年6.7%で、前の予測は間違っていた**」

日本の化石エネルギー輸入額の推移



生物多様性

温暖化

ダブルパンチ
トリプルパンチ
もっとたくさんパンチ.....

食糧問題

が**いっぺん**にやってくる!?

エネルギー問題

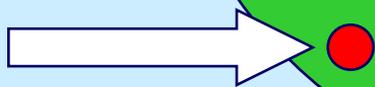
地球の大きさは決まっている



人間の影響が急激に大きくなってきた

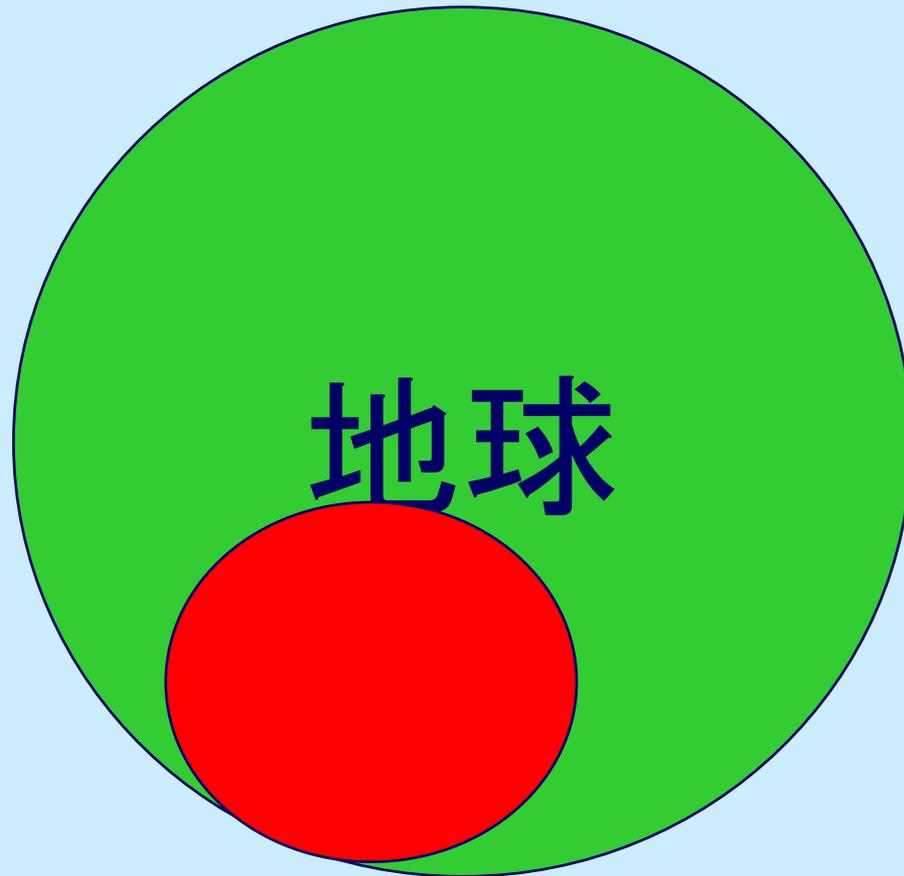
むかし

人間の
影響力

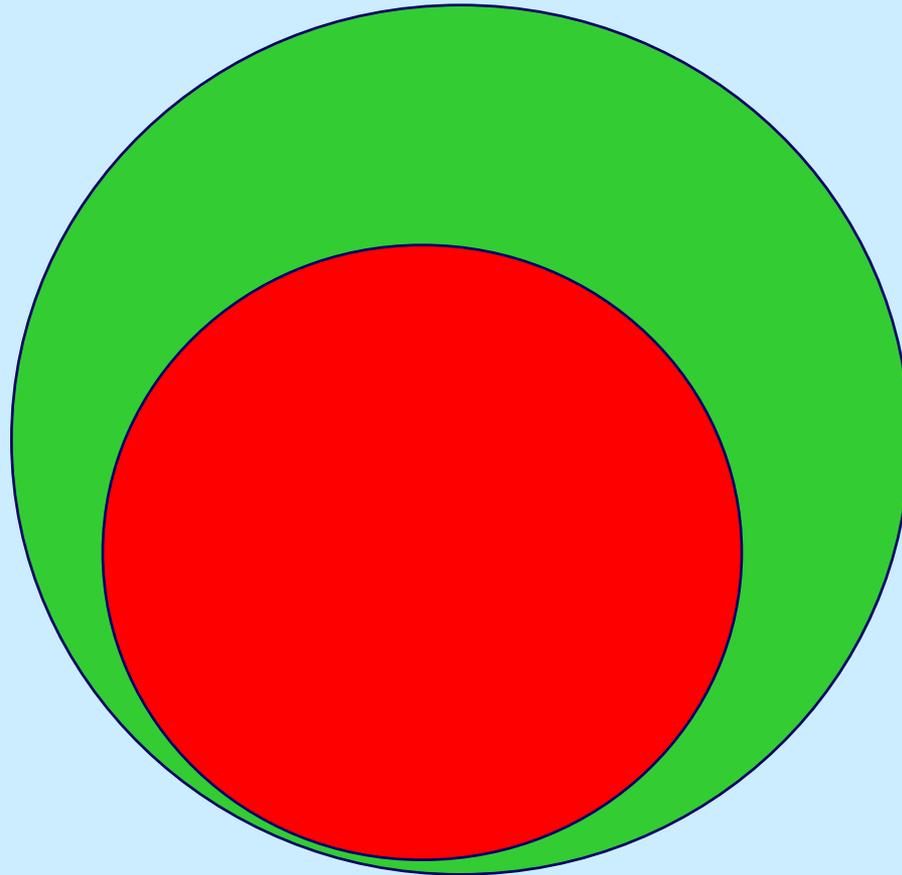


地球

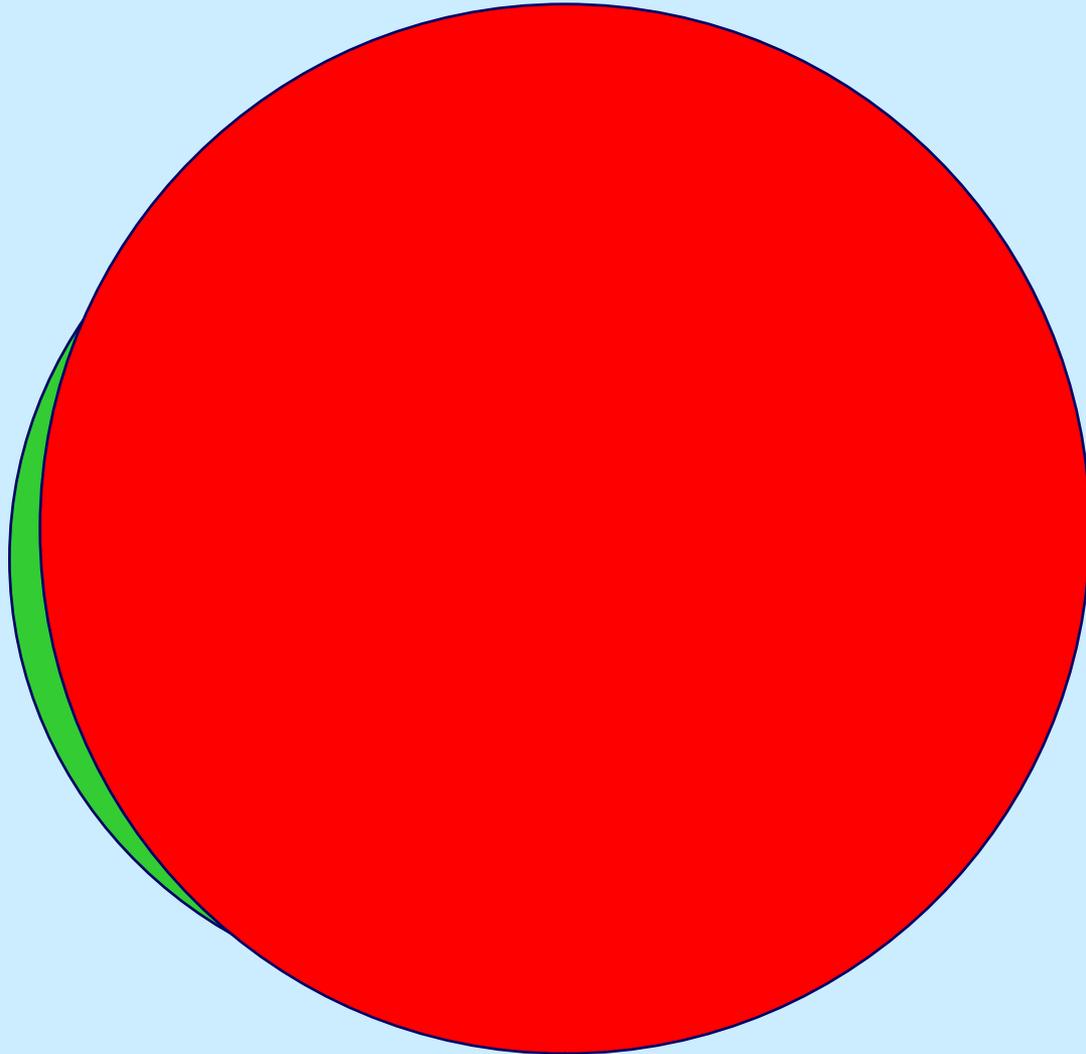
そして



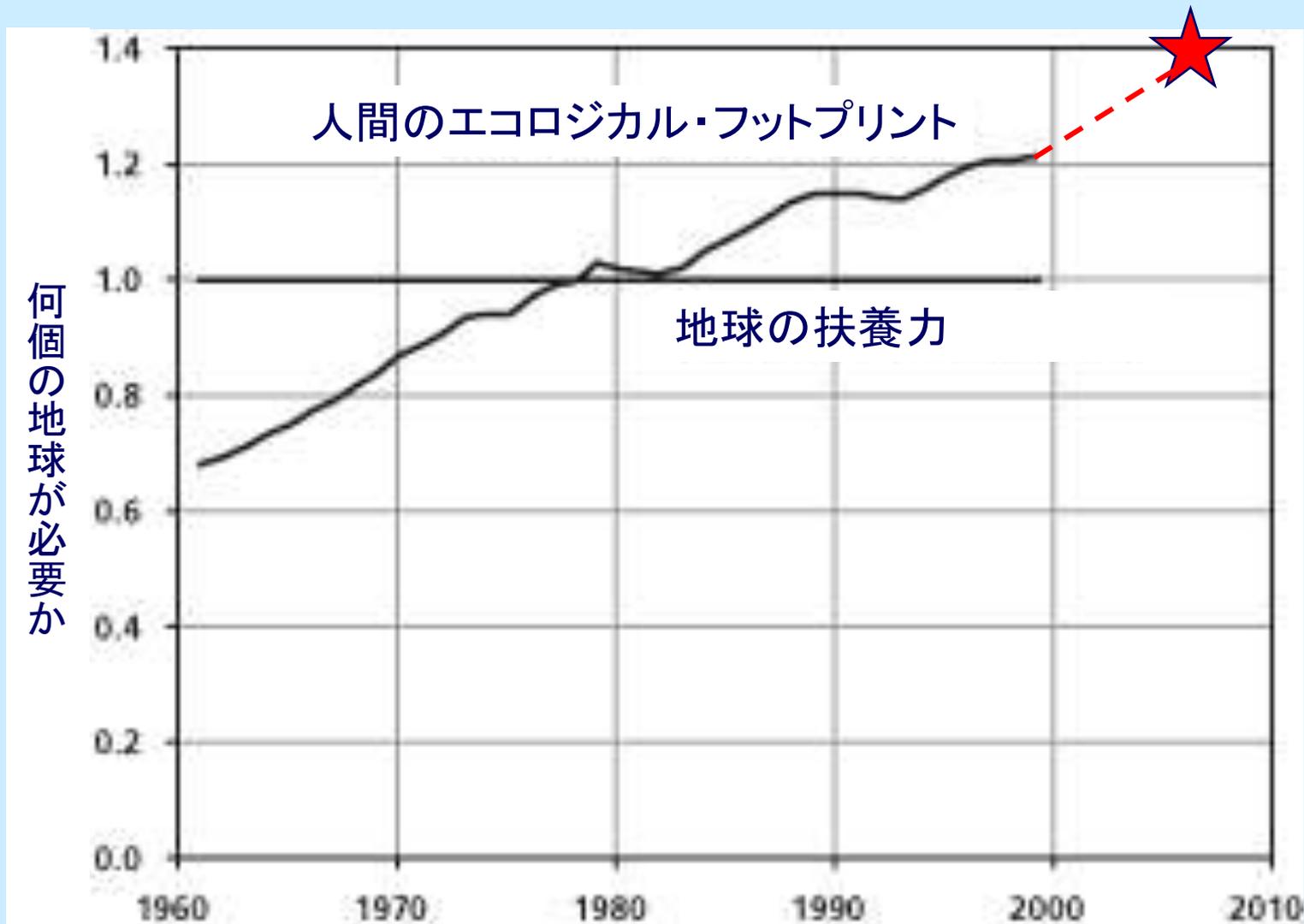
そして



いま



地球1コ分を超えてしまった！



わが国で低炭素社会に向けた取り組みが進まない理由

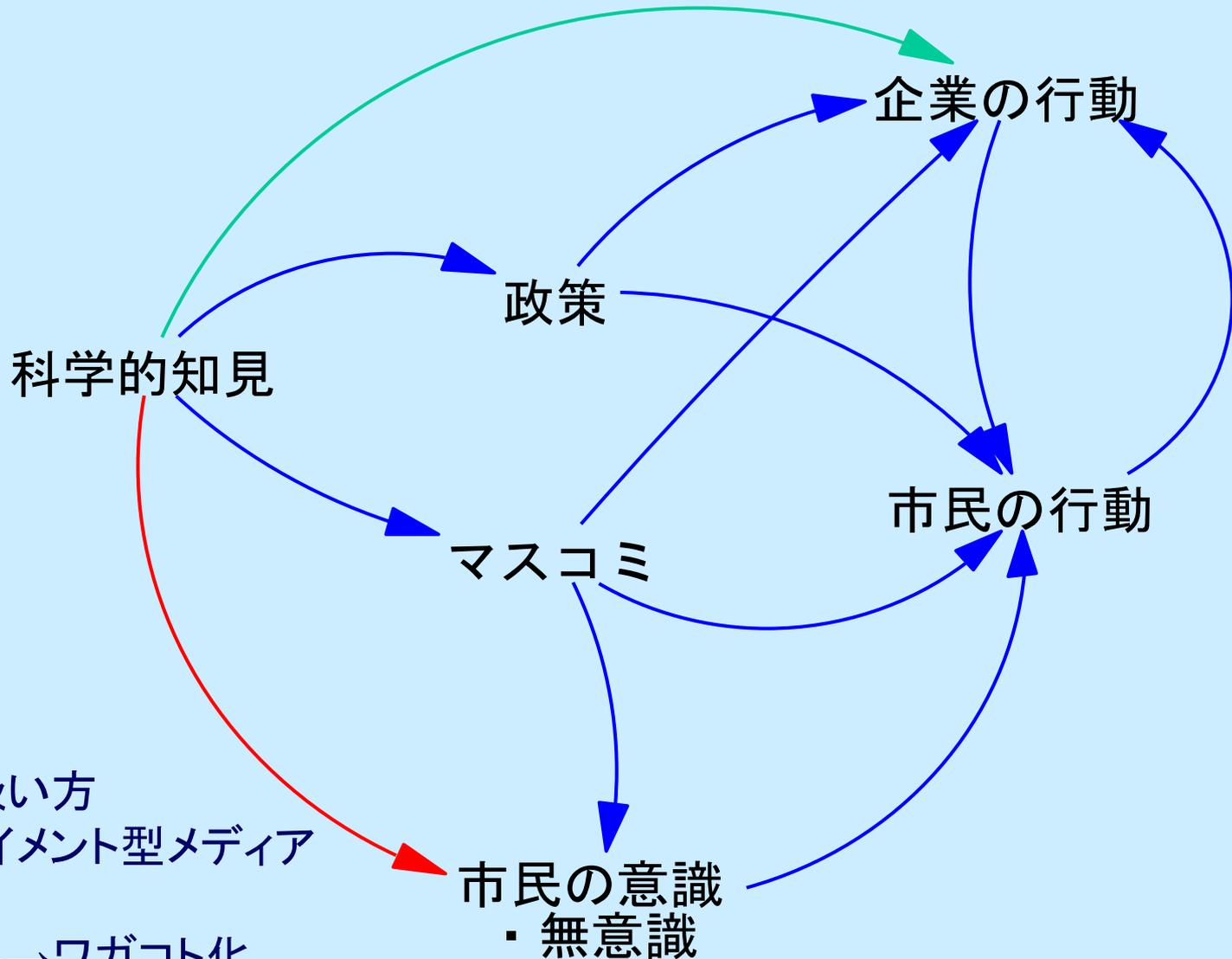
1. **科学**をベースとしたぶれない軸がない
2. 資源/エネルギー制約の時代にどういう国にしていくべきか、ビジョンがない
3. ビジョン/目標を実現するための政策パッケージがない
4. 鍵を握る燃料転換を進める意志がない
5. 組織や個人が行動を変えたいくなる「しくみ」がない
6. コスト・リテラシーがない

(2009年6月、参議院調査会ヒヤリング資料より)

科学ではなく、“距離感”を ベースとした政治/議論

- ・ たとえば、麻生総理の演説「IPCC」への言及ゼロ
- ・ 米国上下院では科学者などを呼んで、半年に100回を超える公聴会
- ・ 中期目標の決定「経済界とNGOの両方に不満を残す形にした」

問題解決と科学



科学と市民

- ・ ワシントン: 科学者による議員・マスコミへの頻繁なブリーフィング
- ・ シンクタンク型NGO(通訳機能)
- ・ 市民の科学リテラシーを高める
- ・ 3つの思考停止に陥らない
- ・ 不確実性とのつきあい方
- ・ 手段と目的を区別する 例: 25%削減目標
- ・ バランスと柔軟性(“仕掛品”意識)

今後の「コスト」「負担」論での役割

- (1)「いくらかかるか？」だけではなく
- (2)それによって削減できるコストは？
- (3)それをやらなかったときのコストは？

ワールド・カフェの広がり



カフェの前提

1. 必要な知識も知恵も、すでに手の届くところに存在しています
2. 全体としての「！」に到達するために
それぞれの貢献を大事にします
考えや意見をつなぎます
一段深いテーマや問いかけを探します
全体としての知恵を探ります
3. 多様性と創造力を活かすなかで、知が浮かび上がってきます



カフェのエチケット

- 大事なことに焦点を当てること
- 自分の考えを共有すること
- 気持ちや思いを語ること
- 耳を傾け、理解しようとする事
- 考えや意見をつなげたり、重ねたりすること
- 洞察やパターン、一段深い問いかけがないか、みんなで耳を澄ますこと
- お絵かき、いたずらがき、おちゃめ大歓迎
- 楽しむこと

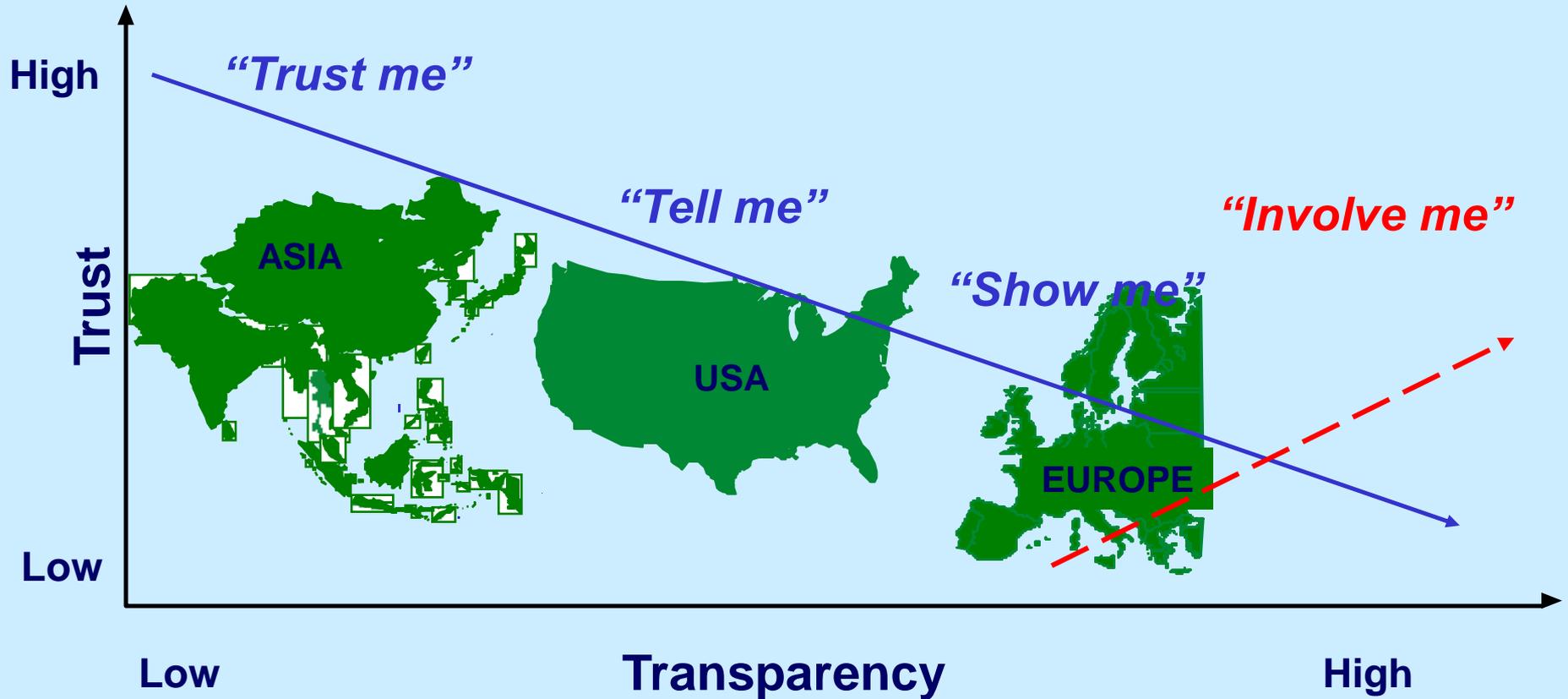


人々の意識/行動が変わらなくては
変化は生み出せない

市民の意識/行動をどうやって、持続的に
変えていくか？

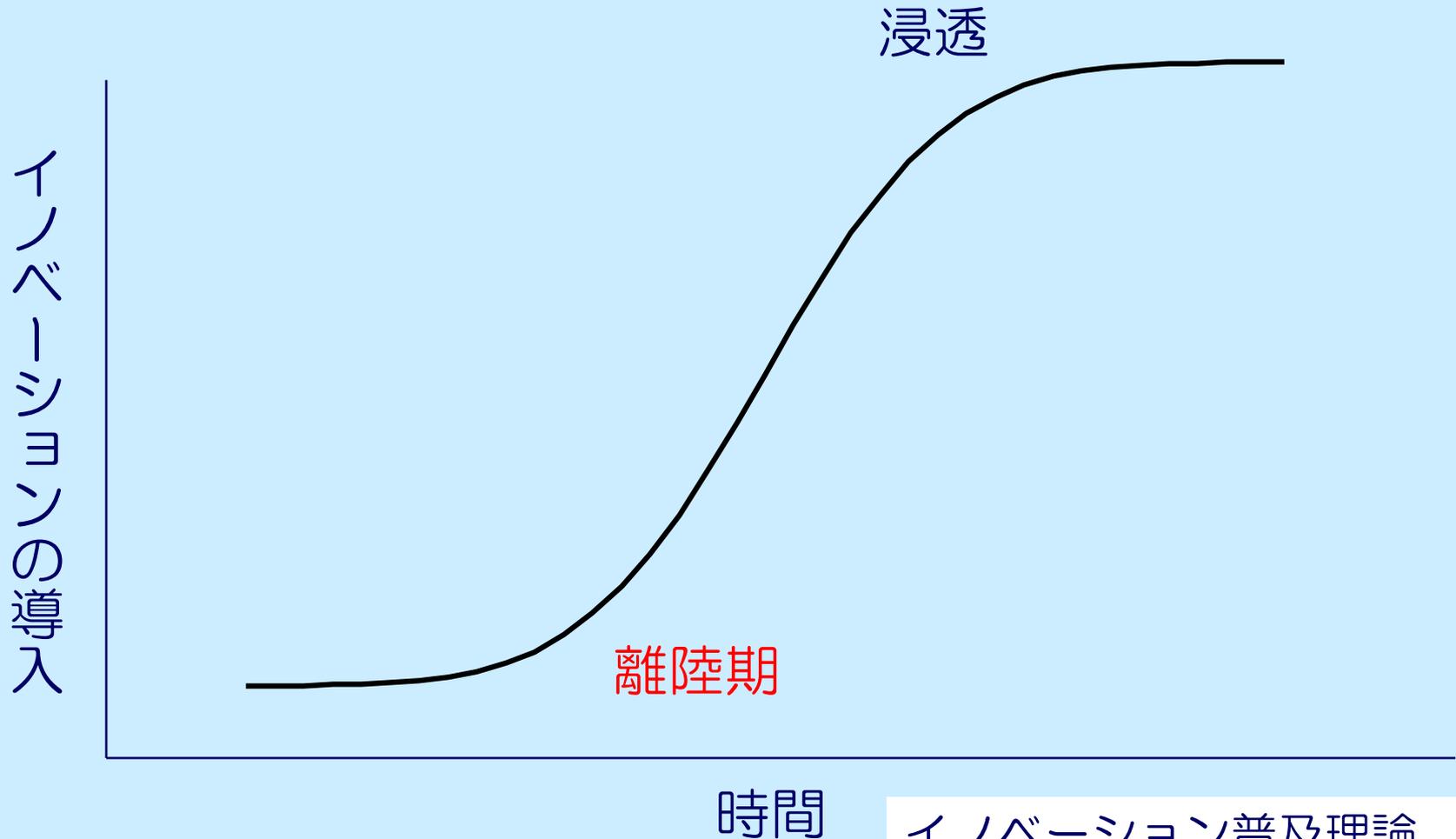
- ・ Buy-in

CSR and Stakeholder Relationships



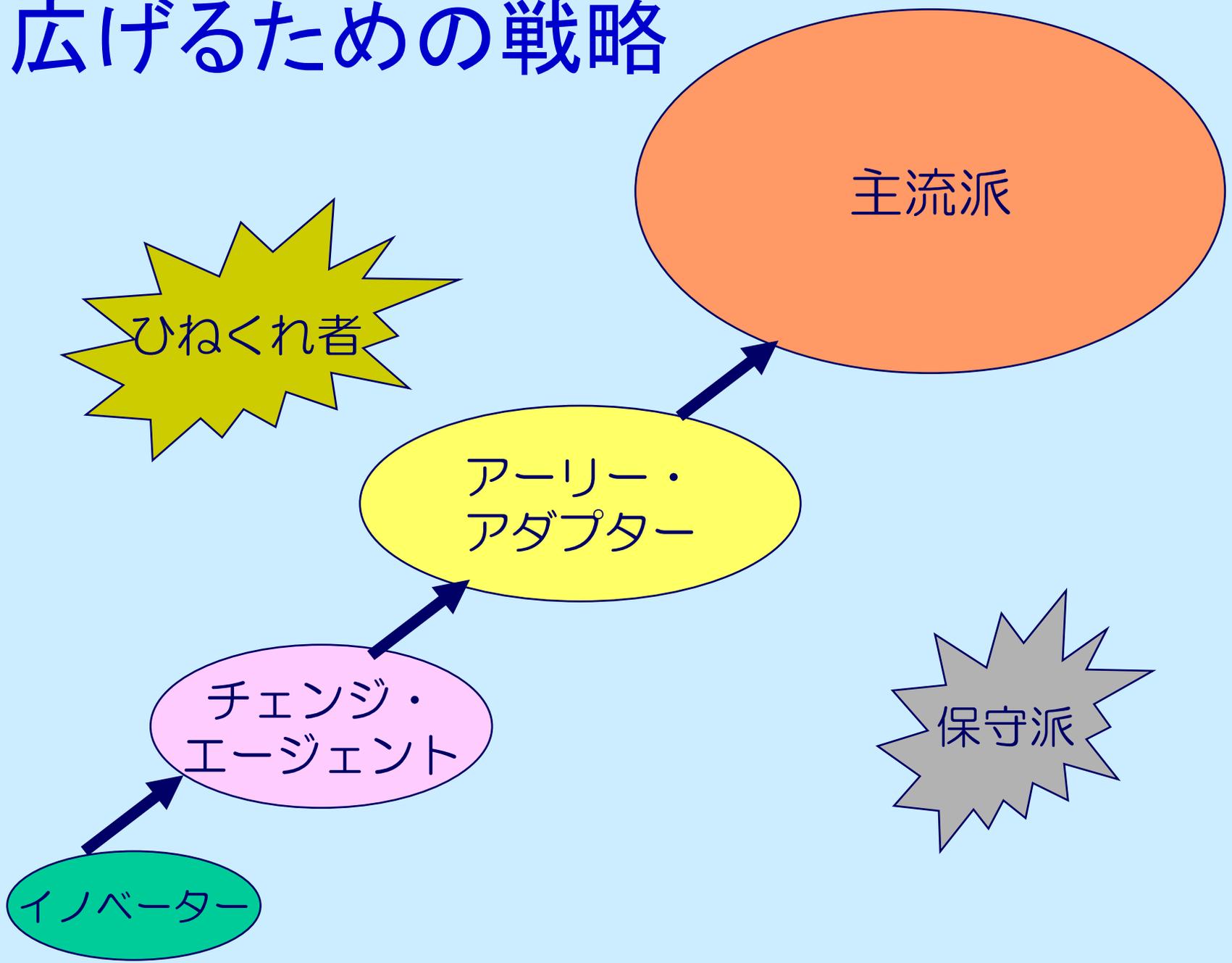
Source: Shell International

イノベーションの導入カーブ



イノベーション普及理論
1962年エレベット・ロジャーズ

広げるための戦略



ひねくれ者

主流派

アーリー・
アダプター

チェンジ・
エージェント

イノベーター

保守派

伝えるための「作戦」

相手が意識と行動を変えやすいようくふうする

「乗り換える舟」

「トロイの木馬」

「太陽と北風」

認知的不協和理論

新たな情報

→心の中に違和感

(これまでのメンタルモデルや行動パターンを覆されるのではないかという恐れ)

→否認、つじつま合わせ

(例: イソップの「すっぱい葡萄」)

さまざまな否認のカタチ

- ・ 転移(すりかえ)
「もっと悪いことをしている人がいる」
- ・ 関与の転換
「私はリサイクルをして環境を保護している」
- ・ 責任の否定
「私がこの問題の主な原因ではない」
- ・ 非難する人を非難する
「私に文句を言う資格などあなたにはない」
- ・ 非難の拒否
「何も悪いことはしていない」

- ・ 無視
「行動の結果はどうせわからない」
- ・ 無力
「私が何をしても大して変わらない」
- ・ 快適性の追求
「自分の行動を改めるのは難しすぎる」
- ・ ねつ造された抑制
「あまりにも障害が多すぎる」
- ・ 技術という白馬の騎士
「技術が進歩すればどんな事態も打開できる」

人が行動を変えるとき： 『ギルマンの方程式』の導入

行動の変化が起こる条件

(新しい方法 の価値) - (古い方法 の価値) > 転換コスト

※転換コスト＝時間、お金、地位、不便さ、カッコなど、
転換するために乗り越えねばならないマイナス

本当の『ギルマンの方程式』

行動の変化が起こる条件

(認知された新しい方法の価値) $-$ (認知された古い方法の価値) $>$ 認知された転換コスト

※転換コスト＝時間、お金、地位、不便さ、カッコなど、転換するために乗り越えねばならないマイナス

イノベーションの普及速度を左右する 5つの要因

- ・ 相対的な利点 (の認識)
- ・ わかりやすさ (理解しやすさ、導入しやすさ)
- ・ 試しやすさ
- ・ 観測しやすさ (効果の見やすさ)
- ・ 両立しやすさ (価値観や自己の変革を要するものは受け入れにくい)

もともとそれほど望んでいないことをやる理由

例: テスト勉強

テレビやデートも×、睡眠不足.....

「勉強することのコスト」



自分

落第点、叱責、恥、追試、留年.....

「勉強しないことのコスト」



自分

結果発表が100年後だったら？

世代間の問題

温暖化

面倒、不便、時間、お金……

「行動を変えることのコスト」



現世代

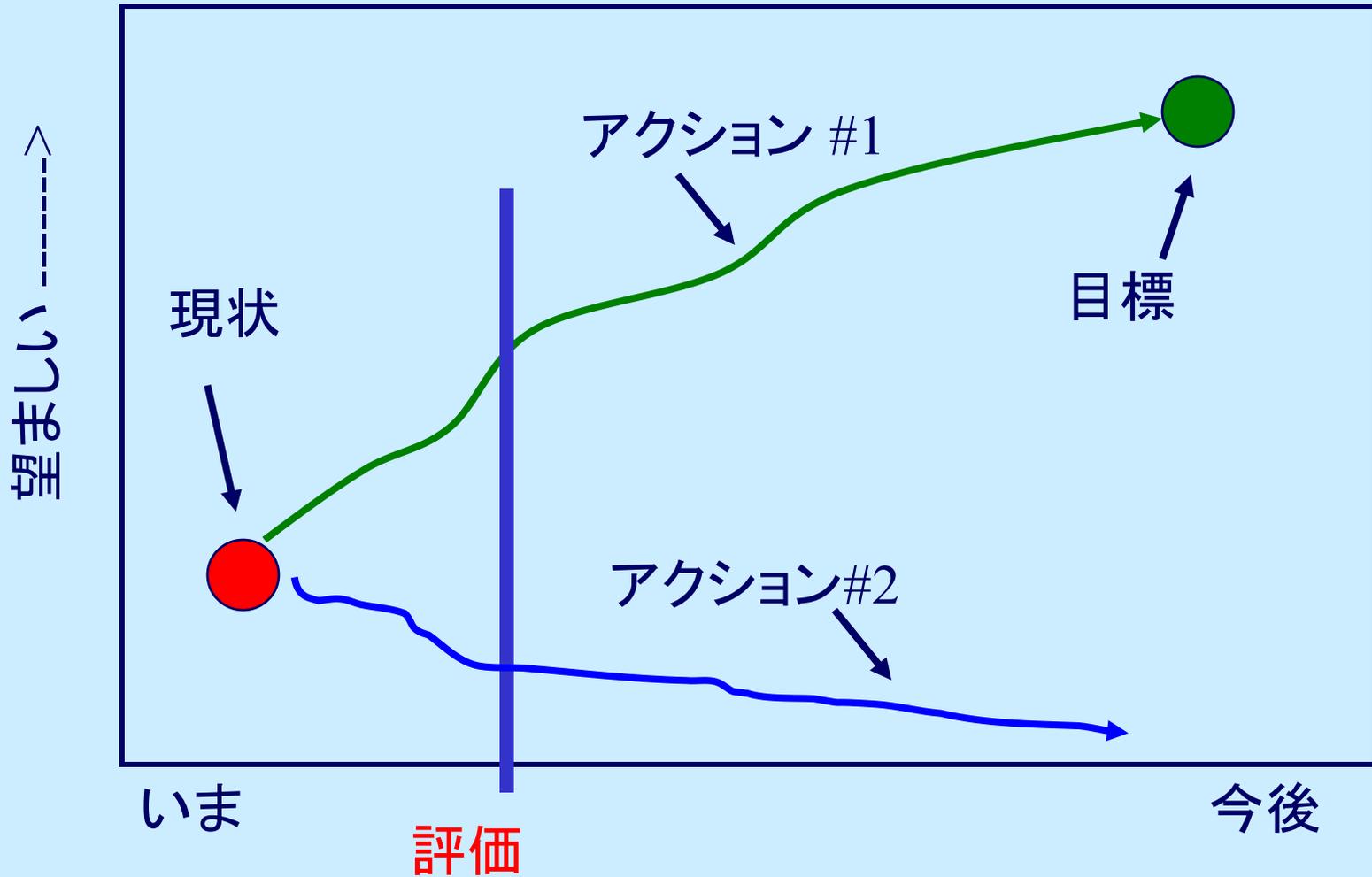


未来世代

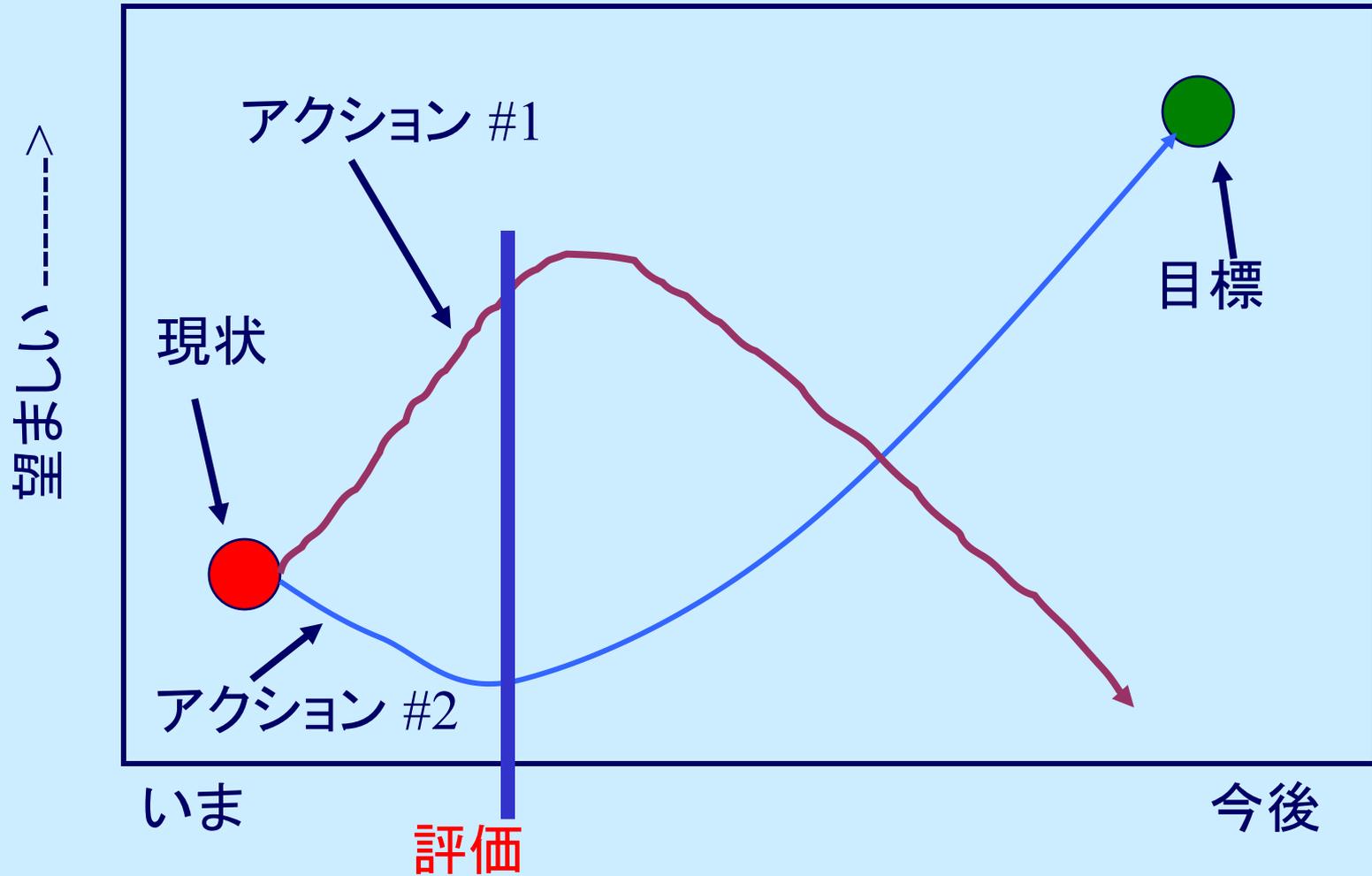
高い気温、さまざまな被害、生きにくさ

「行動を変えないことのコスト」

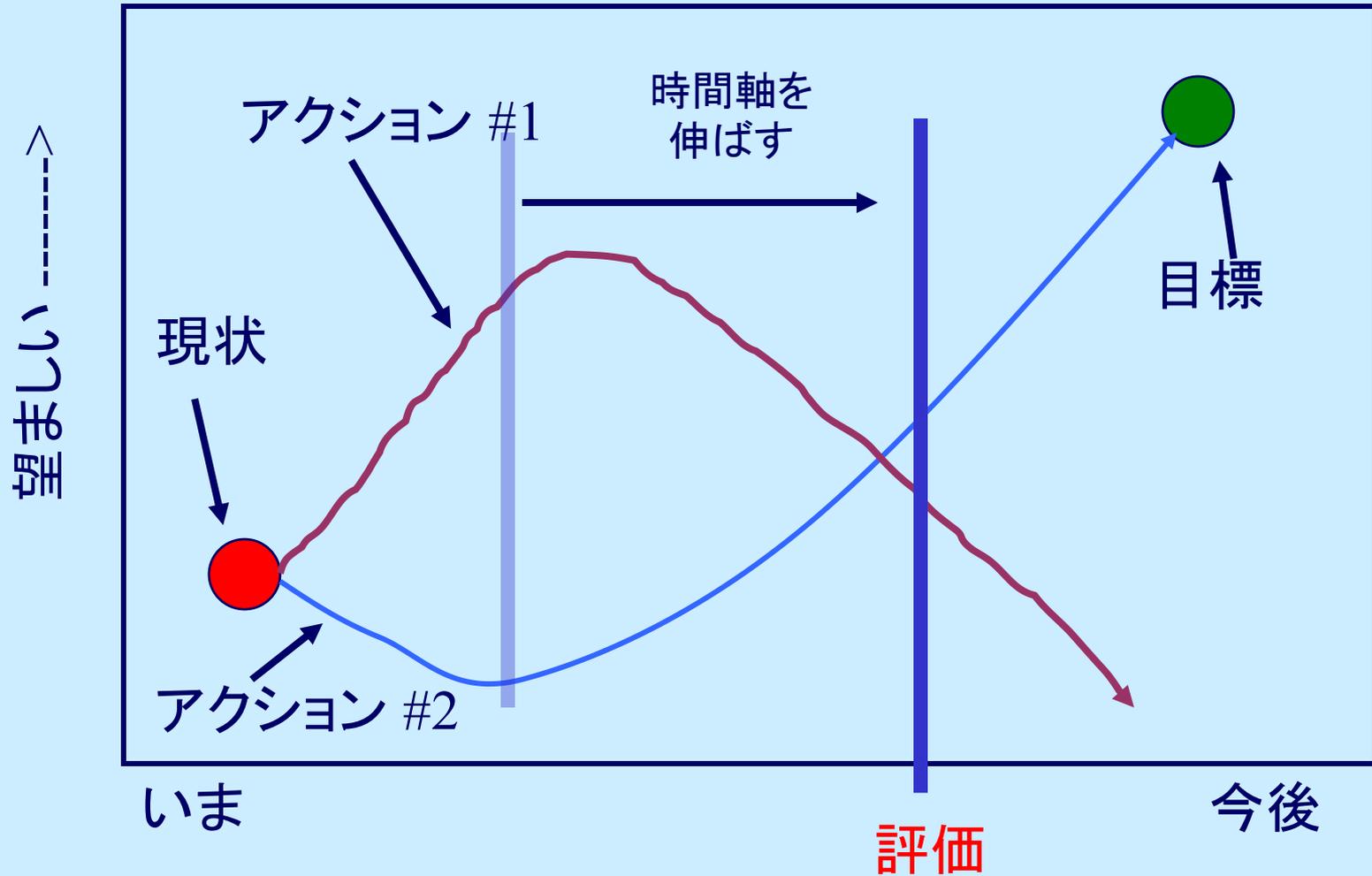
簡単な問題



難しい問題



どうしたらよいか？





ありがとうございました...

